

復興と開拓の

歴史に学ぶ

十和田、三沢の大火から

— 7 —

今回の東日本大震災にとつてより身近な存在では、多くの尊い命や在となること。当館でかけがえのないものは本年度から出前講座一瞬にして失われた。(三沢市内)の実施を

博物館の役割

地域と住民つなぐ場所

でいる地域に誇りや愛着をもてるような素地を生み出すこと。三沢大火からの復興には、地域の連携や人々の協力が不可欠だった。地域への誇りや愛着があるからこそ、人々はこのように地域と人々をつなぐ活動は、長期かけて育まれていく地道な活動となるだろう。さらに現状では博物館関係者も限られた予算・人員での運営が多くなっている。継報交換や相互宣伝を活かす。

から45年という節目の年であったが、この大火でも市内外の人々が協力し合って復興を遂げている。災害からの復興にあたり、博物館や学芸員

の第一に、人々や地域の

できることとは何か? 第二に、博物館の機能や役割を發揮し、地域の人々が自分の住ん

味を持ち、愛着を持つ 同士のさらなる連携や 具体的 な 取 り 組 み を 実



大火後、復興し始める米軍三沢基地正面ゲート前=1966(昭和41)年、三沢市提供

守り、紹介していくこと。2011年度当館の企画展では、三沢市の歴史や魅力を發掘するため、収蔵資料展や宝物展、そして鉄道展を開催する予定である。特に鉄道展では、青い森鉄道や十和田観光電鉄など、三沢市民にとつても大切な公共交通について考えることができる場にしたと思う。博物館は人々の協力や連携、絆を引き出す場所でもあり、学芸員は地域の人がより豊かな生活となるようお手伝いもできるのだと実感し、活動している。

(三沢市先人記念館学芸員・堀内彩子)